

ピストル強奪事件(二)

釜ヶ崎で「暴動」
「釜ヶ崎が」「あいらん」

釜ヶ崎で「暴動」

——二千入投石 交番にも放火
警官を袋だたき

ピストルを奪う

また狂つた釜ヶ崎

——「出勤おそい消防」が発端
アブレの不满が爆発

夜、再び投石、乱暴

警官隊雨ついて実力行使

大阪・西成区の釜ヶ崎で発生した「暴動」
は一夜明けた二九日になつてもいぜんくすぶ

りつづけ、夜にはいって千五百人近い群衆が
前夜の現場付近に集まつてふたたびパチンコ
店に投石、南海阪堺線の電車や市バスを止め
て窓ガラスを割るなどの乱暴をくりかえした。
大阪府警は二千七百人の機動隊員、各署員を
動員、装甲車を先頭に降りしきる雨について
実力行使、暴徒を追い出す一方、三十日午前
一時現在、労務者ら十七人を器物損壊の疑い
で逮捕した。

暴動二日目は昼すぎからはやくも不穏
な様相を示していた。パチンコ店「大
一ホール」前には二時前約五百人の労
務者が集まり、投石したり、警官には
声をあびせたりした。

(午後七時十五分) 大一ホール前に集まっ
ていた労務者約千五百人がふたたび大声で警
備にあたる機動隊員をやじりだした。雨がは
げしくふり出したため労務者たちはアーケー
ドのある飛田本通商店街にもぐりこんだ。商
店街はシャッターをしめ青年団や自警団が警
戒に当たった。

(七時三十分) 同商店街の入り口にあるゼ
ットゲーム店「N.O.1」前に二、三百人が集
まり、出てきた男の店員を突きとばし、表戸
のガラス四枚に投石をしてメチャメチャにこ
わし、さらに牛乳などを入れてあつた冷蔵庫
もたたきこわし、カン声をあげた。

府道平野―尼崎線を阿倍野方面に向け
て走ってきた敬台の市バス、タクシー、
乗用車は飛田本通商店街の交差点で労
務者の一団にとめられた。赤ちゃんを
抱いた若夫婦が乗った中型タクシーは
「じゃらじゃらするた」とゆすぶられ
る。酔った一人はドアに手をかけ、運

転手をひきずり降り降りそうとする。母親
は赤ちゃんを横抱きにして警官隊の方
へ走る。市バスは投石で窓ガラスがこ
われ、大きくリターンして現場をのが
れた。

警官隊はここで平野―尼崎線の
交通を東は阿倍野橋で、西は霞
町交差点でしゃ断した。

機動隊員が「一般市民は商店街を通ら
ないで下さい」とマイクで放送、この
直後実力行使に移り、約二百メートル
の商店街を警棒で労務者をなぐりつけ、
投石者を追った。機動隊員に追わ
れた労務者が逃げ場を失って道路にう
ずくまり、警棒で四、五回なぐられる
と頭から血を流しつつ「助けてー」と
叫びながら逃げていく。レンガ、小石、
棒切れが幅四メートルのせまい商店街
道路に乱れ飛ぶ。「突っ込め」の号令
で若い機動隊員が労務者の一団のなか

に飛び込み、激しくもみあう。

(同八時) 投光器を光らせながら道いっばいにシグザグに走る装甲車に追いつたてられて労働者は阪堺線南園町駅周辺に集まった。

「退去せよ。みんなの写真はとってある。ただいまから捜査にうつる。」

(同九時三十分) 同駅の両側踏み切りの軌道上に労働者二百人が群らがり、平野秀恵美須町行き電車二台をとめて投石、電車は窓ガラスを数枚割られた。機動隊は同駅を包囲し、労働者を構内から追い出し、列車妨害を防いだ。

(同十時) こんどは飛田本通―南海天王寺踏み切りの間に群衆が集まりだした。機動隊が実行行使に移るたびに夕モの子を散らしたようになるが、二、三百メートルも下がるとまた固まる。

西成署前に移ってきていた労働者や見物人約三百人の間から「わー」とカン

「私は決してそうとは思わない。騒ぎを聞き多くの制服警官を出勤させると、かえって火に油をそそぐよりな結果になりはしないか。三十六年の騒ぎのときから『釜ヶ崎』については特別な地区の犯罪要図、初動警備措置要領の二つを作り、いづどんな場合にでもすぐに手を打てるように対策はできている、こんども打つべき手は着実に打っており、手ぬかりはない。

道路に数百、数千人の群衆がいるのに、なぜ事前に解散させることができなかったのか。

「群衆がたむろしているといつて、警官隊を動員、強制的に解散させるのは考えものだ。結果的にはいろいろといえるが、取締まりの方針を横面的にするか、慎重にするかのかね合いがむずかしい。この点はよく考えたい。

地域環境の特殊性を考えると、平常の防犯、公安、警備にゆるみがあったので

声があがった。署の南三十三メートルにある大一バチンコ店にはばらばらと石が飛び、ガラス四、五枚が割れた。待機していた機動隊員が騒いかり、たちまち四人を逮捕。手と足をつかまれひきずられるように留置場へ。寒足には血がにじみ、手足はドロドロだ。

(二九日朝) 大阪府警は西成署に刑事部特別捜査本部、警備部特別本部を置いた。刑事部は捜査一、三、四課、鑑識課員百人がピストル強奪、放火、投石、公務執行妨害などの事件処理を行ない徹底的な検挙体制をしいた。(五・三〇・朝)

警察だけでは防げぬ

大きな政治力が必要

◎養老大阪府警本部長

三十六年の夏と同様、こんども初動警備が不手ぎわだったのではないか……

はないか。

「三十六年夏からはじめてといっているのであれば『ゆるんでいた』ということもいえるが、ことし三月にもあったばかりで、私もつねにやかましく注意し、ことしの夏は特に危険とみて、対策を考えていた。

警察当局としてどうすれば第四の釜ヶ崎事件を防止できると思うか。

「はつきりいって警察だけでは防止できない。動きを事前に察知し、騒ぎを小さくし止めることはできるが、騒ぎを起こさせないという保証はできない。釜ヶ崎地区にもっと大きく強い行政・政治的な対策が必要ではないか。

労働者クラブ作る

府市対策協

大阪府・市と府警本部は二日間にわたった『釜ヶ崎暴動』の対策について三十日午後三時半から府庁別館八階の第二会議室で緊急三者連絡会議を開く。出席するのは、府民生部、

労働部、知事室、市民生局、府警本部警備部の各部、局長クラス。府市は去る三十六年の第一回暴動が発生した直後「問題の解決は生活安定、環境整備にある。こんどの事態を機に府、市それぞれの責任で協力して諸施策を推進する」との知事、市長の共同談話を出している。〃それぞれの責任〃を強調したこの声明にもうかがわれるように府は労働対策、市は民生対策と、ここでも府、市別々に行政が進められており、毎月一回開くことになつていた釜ヶ崎対策連絡会議も熱のさめるにつれて最近は一、二、三、四ヶ月に一度開かれるようになっていた。……

市としては当面の対策としてこうした一人身のわびしさをなぐさめるものとして地元の日赤奉仕団や民生委員が組織している愛隣会に委託し、労働者が気軽にねそべってテレビを見たり将棋、雑談のできる「労働者クラブ」を作ろうとしている。これから地元と話し合つてドヤを買収、建設する方針だが財源につ

いても国と協議するといふ。単身者の対策としてはドヤにかわり明るくて安い宿泊設備の建設が望ましく、さきの暴動のあとも市は工費一億円で六百四十人収容の単身者寮を考えたが、ドヤ業者の反対で立ち消えになつてい

る。民生局の調べでは現在約二百軒のドヤがあるがベッドのふさがる率は六十%と業者の競争も激しい。ここに公的なものを作るとすればさらに競争が激しくたり商売を圧迫することになりかねない。関民生局長は「根本的な対策としては日雇労働のあり方をできるだけ常備にすることと宿泊設備の充実だ。このためには国がスラム改造の特別立法を作り府市行政のワクを越えた総合的な町づくりができるよう左財政措置をとつてもらひしか手がない」といつている。(五・三〇・夕)

井大蔵寿一 (大阪市大教授・スラム対策)

ひとくちにスラムというが、最近の釜ヶ崎

平山谷には〃現代スラム〃ともいふべき現象がいちじるしく現われてきている。一つは〃人間疎外〃であり、もう一つは〃一時宿泊所〃という機能だ。ここに集まる労働者たちのうち、三、四割は郷里に妻子を置いてきているか、独身のいわゆる〃単身者〃で占められている。彼らは仕事から帰つてもゆっくりいこ場がない。ドヤは味気なく、寒々としてい

る。ついおもしろくないので酒やパチンコでウサをはらす。金を使い果たすと〃おれたちの金をまきあげる〃ととんでもないやつあたりをする。また彼らはたえず流動するが、少なくとも二、三か月はここに〃定住〃する。だがドヤはこうした〃準住宅〃ともいえる一時宿泊所の役割を少しも果していない。あい

変らず日払で宿賃をとる。ここに問題があるのだ。府や市は三十六年夏の暴動以来いろいろ手を打っているが、ほとんどは、世帯持ちだけに向けられてきた。本当に必要なのは、こうした新しい現象に応じた単身者対策では

ないだろうか。

井本田良寛 (済生会今宮診療所長)

現場をまわつて労働者たちに話を聞いてみると、こんどの騒動は三十六年の事件とは本質がかなり違うことがわかつた。前は労働者が中心だったが、途中から狂暴化したのは労働者と違う人たちだ。釜ヶ崎住民も最近けア

ンコばかりではな、店員、中小企業労働者などがふえ、警察よりパチンコ屋、飲み屋などに強い反感を持っている。三十六年当時の実態分析で釜ヶ崎対策を考えていては間に合わない。アンコ以外の住民のことも含めた幅広い、より深い福祉行政が必要だと思ひ。

井E・ストローム (釜ヶ崎で私設保育所を経営・ドイツ人)

すぐ実現できる提案をひとつ。単身労働者のための公営宿泊所をつくることです。はじめは三十人ぐらい収容の小さなものでもいい。

そこでは集団生活を営むプログラムをしつかり作ってひとつの社会をたて、労務者に組織の中の一員としての自覚と責任感を持たせることです。最後には不健康なドヤがなくなるのが理想です。

井松原西成警察署長

この地区は働らくもの町であり、主人公の労務者たちは誇りを持ってほしい。「騒動」によってゆがめられた町の名を回復するため、警察の力でできる範囲のことをしたい。騒ぎの原因といわれるパチンコ店の労務者に対する客扱いの悪さとか、不当な利益をむさぼっているような印象を与えているのはまずいので、近く他の業者をふくめた集会を開き、指導する。防犯懇談会や社会福祉センターとの話し合いを通じて住民の気持ちをもっと理解するよう努めるとともに、まじめな生活態度をもつ労務者との話し合いには、わたしはいつでも応ずる。機動隊の増強など警備体制につ

いて市民に不安を与えないようにしたい。

井飛田本通商店会のAさん(四〇)

こんどの騒ぎは警察の出方がもっと早ければ防げたはず。労務者対策は温情主義で逆効果で、強い警察力を発揮しなければならぬ。ただ、強い警察力も必要なことにはわかるが、三十六年度の暴動前から叫ばれているのに、ほとんど実現されていない状況では、いくらいつてもムダだ。(五・三〇・朝)

金で行きづまる

府・市対策協議はカラ回り

大阪府、市、府警本部は三十日午後三時三十分から府庁別館会議室で釜ヶ崎対策連絡会議を開いた。不法宿泊施設の取り締まりや、就労あっせん場所の新設など環境整備が問題になったが、いずれも財政の裏づけや府、市行政の調整が必要なので六月一日に再び連絡会を開き、具体策を持ちより検討することになった。

この日の会議でとくに問題になったのは不法宿泊所の一掃。さる三六年の騒ぎのときは百五十軒が不法建築だったが取り締まりの強化で三八年には二十七軒に減り、取り締まりの手をゆるめたとたんにまた不法建築がふえはじめ、昨年七月、西成保健所が調べたところ簡易宿泊所六十二軒が無確認建築だった。府警は手ぬるい市の取り締まりに対し強く反省を求めた。

一方、府の就労あっせん場所の新設は昨年九月の連絡会議で府警から指適されたものの財源難から持ち越したまま。府労働部は西成区内に四か所の候補地をみつけたが、三・三平方メートル当たり三十万円の買収費に財政当局からOKが得られず、この日も「トラップが乗り入れられるより具体的な場所を検討中」と苦しい言いわけをしていた。

このほかいまある西成労働福祉センターの拡充や独身用簡易宿泊所の増設なども計画はあっても過密地帯だけに用地買収はむずかし

く、また釜ヶ崎だけに大きな府、市費をかけることは是非についても疑問があるという意見もでるなど、とくに目新しい対策はなかった。

特別立法の要望きめる

大阪市民生局はこの日の連絡会議のあと局長、佐々木次長を中心にこんどの対策について検討した。その結果、これまで愛隣会館や保育所など福祉施設の建設に力をいれてきたが長期にわたる抜本的な釜ヶ崎改造プランがなかったことを深く反省、こんど市総合計画局幹部を加えてマスタープランづくりを進める一方、国にその財政措置やスラム改造の特別立法づくりを要望することにした。

(五・三一・朝)

釜ヶ崎三晩続いて騒ぐ

警察、高姿勢に転ず